

殿筋収縮による姿勢・動作の変化  
～カーフレイズ動作・起き上がり動作～

スマイル会グループ

後藤 淳

姿勢や動作の評価において、多くのセラピストが客観的指標の一つとして筋電図を用いることが多い。筋の機能解剖は、基礎知識としては理解しているものの、実際の動作場面で様々な筋がどのように連携しながら活動しているかについての理解は、瞬時の判断に難渋する場面もある。また、正常動作においての筋の機能が明らかになる中、実際の臨床場面になると、疾患特有な姿勢や動作、四肢体幹に認められる構築学的問題などにより、知見と臨床像が一致して理解することが難しくなる場面も多く経験する。このような臨床例においても、筋電図を実際に用いることにより、運動学的に筋がどのように活動しているのかを再発見できる場面も少なくない。

臨床場面で治療に用いる動作において、何かを意識させることで動作時の筋活動のパターンが変化すること、異なる箇所筋が活動しやすくなること、あるいは痛みが軽減できることなどを経験することがある。例えば、足関節底屈筋や外反筋、膝関節伸展筋の筋活動の促進のためにおこなうカーフレイズ動作、体幹筋の促進のためにおこなう腹臥位からの体幹伸展動作において、臀部に力を入れて動作をおこなう方が痛みの出現を出すことなく、反応が良いことを経験する。

今回、このカーフレイズ動作と腹臥位からの起き上がり動作時に、臀部に力を入れさせて動作を行った時の変化を筋電図を用いて観察した。その結果を報告させて頂くとともに、実際に体験をすることでその動作の違いを体感して頂きながら、他の治療動作への応用なども皆さんと一緒に議論できれば幸甚である。